

原文

この名称が一般的であるかのように誤解するおそれのある表現である。

<p. 103・1～13行目>

その直後の7月7日、北京郊外で日本軍と中国軍とが軍事衝突した（盧溝橋事件）^①。近衛内閣は中国に一撃をあたえれば和平ができるとみなし、天皇による宣戦布告なしに軍隊を派遣し、北京、天津、さらに上海を占領した（第2次上海事変）。しかし抗日民族統一戦線の抵抗は強く、日本軍は苦戦し、1937年、中国政府の首都南京の占領にさいして、多数の中国軍人や民衆を殺害した（南京大虐殺、南京事件）^②。この事件に対して国際的な非難がおき、中国政府も首都を武漢（漢口）、奥地の重慶へと移して抗戦をつづけた。

<p. 103・注①>

① 当時、義和団事件以来、駐屯していた日本の中国駐屯軍（→p. 56）は増強され、天津から北京近くまで駐兵していたが、夜間演習の終了時に発砲があり、その犯人は不明だったが、翌日未明に中国軍を攻撃した。また、満州事変以来、交戦状態のなかった中国と、この事件以後、全面的な戦争となったが、日本は宣戦布告を行わず、「支那事変」とよんだ。

<関連訂正（注が一つ増えたため）>

<p. 103・10行目>

南京事件）②。

<p. 103・注②>

②

修正文

<p. 103・1～13行目>

その直後の1937年7月7日、北京郊外で日中両国軍が軍事衝突した（盧溝橋事件）^①。現地では停戦協定が成立したが、近衛内閣は華北の獲得をめざして軍隊を増強し、宣戦布告のないままに中国との戦争を開始した（日中戦争）^②。日本軍は北京と天津を、8月には上海を占領した（第2次上海事変）ものの、中国国民の抵抗ははげしく、国民政府の首都である南京占領にさいし多数の中国軍人や民衆を殺害した（南京大虐殺・南京事件）^③。この事件は国際的な非難を呼び、また、国民政府は首都を武漢（漢口）、奥地の重慶へと移して抗戦をつづけた。

<p. 103・注>

<注①をp. 102へ移す>

① 義和団事件をきっかけに北京近くに駐留していた日本の中国（支那）駐屯軍（→p. 56）が行なった夜間演習終了時に発砲事件と兵士1名の行方不明騒動がおこった。兵士は見つかり、発砲した犯人は不明だったが、翌日未明、中国軍を攻撃した。

② 満州事変以来、交戦状態のなかった中国と全面的な戦争となったが、宣戦布告を行わなかった日本は、この事件を「北支事変」とよび、その後「支那事変」とあらためた。現在、盧溝橋事件にはじまる中国との戦争を日中戦争または日中全面戦争とよんでいる。

<p. 103・10行目>

南京事件）③。

<p. 103・注②>

③